

報道関係者各位

ご案内

**日本受精着床学会のワークショップで患者が座長を担当
日本初！ 不妊の学会に患者を招待 医療者と患者のセッションが実現！**

NPO 法人 Fine (Fertility Information Network = ファイン) <http://j-fine.jp/>

会場は約 150 名の患者はじめ、メディカル・コメディカルで満席

不妊症患者をはじめ不妊で悩む人をサポートする、体験者によるセルフサポートグループ「NPO 法人 Fine (ファイン)」の理事長・松本亜樹子は、7月28日、広島 HART クリニック理事長・高橋克彦院長とともに、日本受精着床学会のワークショップ「妊娠・治療継続が難しい患者へのアプローチ(対応)」で座長を務めました。

今回、不妊の学会としては日本初の試みとして、患者の無料招待が行なわれました。この「患者招待」は、松本がワークショップの企画も担当させていただき、提案・実現に至ったものです。

当日は、約 150 名の患者の他、医療者も多く参加して会場は満席、座席を追加しても会場に入りきれない参加者があり、入場制限を行なうほどの盛況ぶりでした。

発表者は京野廣一氏(医師・京野アートクリニック理事長)をはじめ、看護師、受精卵を扱う胚培養士、生殖心理カウンセラー、受付事務の 5 名(下記 1 を参照)。これらの方々は、不妊治療現場において、医学面や精神面など多方面から患者を支える「患者のメインサポーター」といえる存在です。

発表では、医師からは「治療のやめどき」をテーマに具体的なデータと症例の紹介がありました。そのほか、「もっと患者さんとコミュニケーションをとりたいと常に願っています」(看護師)、「妊娠率を上げるため、顕微授精の技術向上に努めています」(胚培養士)、「夫婦で最良の判断ができるようサポートしていくので、まず日頃の思いを話してほしい」(生殖心理カウンセラー)、「助成金(下記 2 を参照)の情報など、経済的な問題についてのご相談をお受けしています」(受付事務)など、主に日頃の業務や、患者への思いについて語られました。

発表後の質疑応答では多くの患者が発言、活発な意見交換が展開

発表後に行なわれた質疑応答では、治療についての技術的な問題、精神的な問題、助成制度など、参加者から多くの質問があり、発表者と患者の活発な交流の場となりました。

座長の高橋医師は、セッション最後のコメントとして「この場にこれだけの患者が集まったということは、患者を含めた“チーム医療”という理想の形が実現しつつあるということ」、松本は「参加者からこんなに質問が出るとは思わなかった。カップルでの参加も目立ち、日本の不妊当事者の意識の向上を感じました」と語りました。

Fine はこれからも、不妊で悩む人たちと、医療者をはじめ不妊の人々を支えるサポーターとの橋渡しの活動を続けていきます。

(2) 特定不妊治療費助成事業：厚生労働省が定める体外受精・顕微授精に対する助成制度。年間所得が夫婦合算で 730 万円以下のカップルを対象に、1 回の治療に対し 15 万円を限度として 1 年度あたり 2 回まで、通算 5 年間助成金が支給される。また、自治体によってはこの制度とあわせて独自の助成制度を実施している。

日本受精着床学会の開催概要

学会名：第 28 回日本受精着床学会総会・学術講演会

日時：2010 年 7 月 28 日(水)・29 日(木) * 患者招待のワークショップは下記参照

会場：パシフィコ横浜

日本受精着床学会ウェブサイト <http://jsfi27.umin.ne.jp/>

患者招待についての参考ウェブサイト <http://j-fine.jp/top/event/jsfi2010.html>

ワークショップ 4「妊娠・治療継続が難しい患者へのアプローチ(対応)」 7 月 28 日 15 時 ~ 16 時 30 分

発表者： 1

京野廣一氏(医師代表・京野アートクリニック 理事長)

浅野明恵氏(看護師代表・神谷レディースクリニック 看護師長)

佐藤節子氏(胚培養士代表・横田マタニティーホスピタル)

平山史朗氏(生殖心理カウンセラー代表・東京 HART クリニック)

門田貴子氏(受付事務代表・岡山二人クリニック)

セッション座長：高橋克彦氏(広島 HART クリニック 院長) / 松本亜樹子(NPO 法人 Fine)

NPO 法人 Fine これからの活動予定 (2010 年 8 月 1 日現在)

- ・『Fine 祭り 全国おしゃべり会 special』(仮称)開催予定 2011 年 1 月:名古屋、2 月:大阪、3 月:東京
- ・その他、各種講演会、学会にて発表予定
- ・各種わかちあいの会など当事者の集いの実施

NPO 法人 Fine これまでの活動実績 (抜粋)

日本初! 不妊ピア・カウンセラー養成講座の運営

日本で初めて、不妊に特化したピア・カウンセラーを養成(2010 年 4 月より第六期開講中)

参考ウェブサイト <http://j-fine.jp/counseling/2010/piacouns.htm>

日本初! 不妊当事者団体として、国会請願を実施!

不妊当事者団体として初めて、2007 年 10~11 月に、不妊治療に関するすべての薬剤と検査に対する保険適用を求めて国会請願を実施! 集まった署名は約 15,000、34 名の国会議員にご協力いただきました。2009 年には請願項目を改め、「助成金拡大」と「不妊治療の保険適用範囲の拡大」を掲げて、第 2 回目の国会請願を実施。集まった署名数約 13,000、協力議員 38 名。2010 年 5 月、第 3 回目を実施、集まった署名は約 16,500、32 名の国会議員にご協力いただきました。

参考ウェブサイト <http://j-fine.jp/shomei/shomei.html>

『Fine 祭り』を 2 年連続で開催

2008 年 11 月 2 日、東京ウィメンズプラザにて『Fine 祭り 2008 ひとりじゃないよ!不妊』開催。入場者約 500 名。

2009 年 11 月 3 日、東京・日経ホールにて『Fine 祭り 2009 そこが知りたい!不妊』を開催。入場者数約 550 名

参考ウェブサイト : <http://j-fine.jp/matsuri/2009/matsuri.html>

不妊に関するさまざまな調査を実施

2009 年「不妊治療施設とのコミュニケーションアンケート」を実施

2010 年「不妊治療の経済的負担に関するアンケート」を実施(回答者数/1,111 名)

参考ウェブサイト <http://j-fine.jp/top/anke/keizai-anke.html>

各種要望書の提出

これまでに、厚生労働省に「新薬認可の要望書」「保険適用の効能追加の要望書」「自己注射の要望書」を提出。すべての要望書が承認されました!

2009 年「黄体ホルモン補充剤プロゲステロン膈座薬の承認要望書」を提出

参考ウェブサイト : <http://j-fine.jp/yobo/pro.html>

カウンセリング事業

専門家によるカウンセリング、ピア・カウンセラーによる電話相談、わかちあいの会、カウンセリングについての公開講座などの実施

学会・研究会への参加・発表

2009 年 ESHRE(欧州生殖医学会)患者部門にてゲストスピーカーとして発表(オランダ)

2009 年 第 27 回日本受精着床学会総会・学術講演会「生殖医療の質向上に向けて患者からの提言」において患者代表としてスタッフ 3 名が発表

2010 年 第 28 回日本受精着床学会総会・学術講演会に、理事長がセッション座長として参加、患者招待を実現

媒体関係(取材や協力)

朝日新聞・日本経済新聞・毎日新聞・読売新聞・東京新聞・北海道新聞・京都新聞 他

NHK「クローズアップ現代」・日本テレビ系ニュース番組「今日の出来事」・日本テレビ G+「医療ルネッサンス」・NHK「@ヒューマン」 他 週刊朝日・赤ちゃんが欲しい・AERA・Domani 他

その他

JISART 施設の認定審査に患者代表審査委員として参加(2005 年~現在)

~Fine 会員は約 900 名(2010 年 7 月現在) さらに SNS も開設!登録者約 750 名(2010 年 7 月現在)~

NPO 法人 Fine(ファイン) <http://j-fine.jp/>

〒135-0016 東京都江東区東陽 1-32-4 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606

* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです

~当りリリースについてのお問い合わせ~

E-mail : NPO 法人 Fine 広報窓口 : finekouhou@j-fine.jp